

本当に必要な人のために献血したい。 でも、気がならない理由がある。

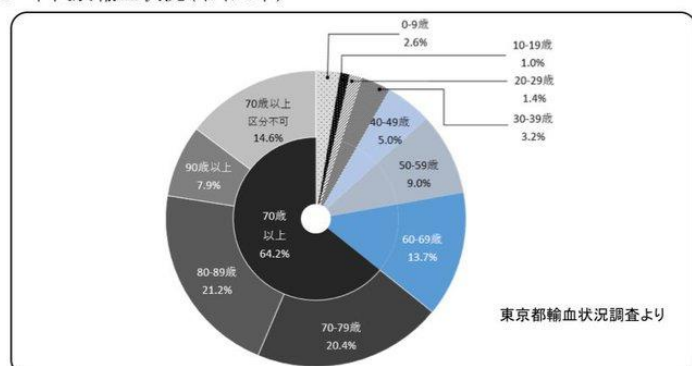
ある救急医の言葉

若い人の交通事故でも救命のために大量の輸血が必要になることがあります。
が、現行制度の下では、全ての医療資源は高齢の方など優遇世帯に使われてしまいやすい状況です。現状の輸血使用対象は下図の通り。「老化」に伴う貧血に対して大量の輸血が使用される一方で、子供や若者の有事には輸血が足りずに死亡する、という不均衡は日常となりました。

主な元凶は、優遇世帯の医療費が極めて安く設定されていることです。高齢者医療制度・高額療養費制度の下で、無限輸血使い放題プランとなってしまうのです。

都内の輸血状況

1 年代別輸血状況(令和4年)



ある医療従事者の言葉

90歳も過ぎた女性寝たきりの方、下血しまくってる。
これから内視鏡の検査するとか色々あるけど、この年代だと完治はほぼ無い。多分輸血して持たせるんだらう。
こういう方々が死ぬ迄輸血して、献血が足りません！とか町中で集めようとするんだらうな、と思うでしょうと思わなくなる。
90歳も過ぎても検査して輸血して限界まで治療して死なないようにされてるのは、まるで人体実験されてるような気がする。
どこまで生きさせられるのか？こんな状態から回復できるのか？と。老化と寿命は受け入れるしか無いのに。
不老不死を目指して治療し続けていけば、いつか不老不死になれるのではないかという実験され続け亡くなれば、救えなかった、と嘆く医師は自分が失敗したと思うのだろうか。
人体実験されてる様な高齢者が全国の病院に沢山いるのだから、と何ともいえない気分になる。

私たちは血液需要の適正化を訴えています

▼全世代医療費3割負担

▼高額療養費制度の年齢上限の設定

皆さんも医療従事者として、おおっぴらに言えないことがあるでしょう。
まずは個人として一緒に声を上げていきませんか。



Webサイト
jisedaiundo.com



代表 北村達哉
x.com/Tatskaia



政治結社 次世代運動
現役を守り、次世代や弱者にツケを残さない

政治結社「次世代運動」は、肥大化する社会保障問題を含め、現役層や次世代への莫大な皺寄せ負担となる問題に対して「当事者世代」として、声を上げて具体的なアクションを起こす為に立ち上げた政治活動コミュニティです。